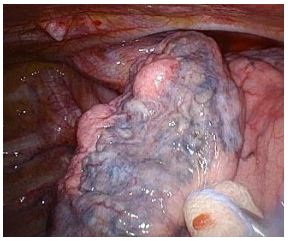
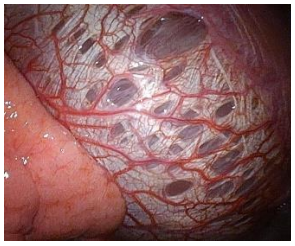
【月経随伴性気胸】

女性の生理に伴い発症する気胸です。

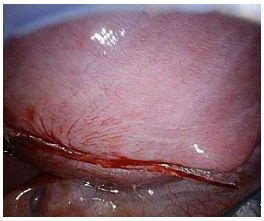
妊娠可能な 30 代後半以降に好発する気胸で、右側に多いのが特徴です。これは子宮内膜症に伴う病気です。子宮内膜症は子宮内膜組織が腹腔内に拡がり、横隔膜に腹腔と胸腔がつながる穴が開くことで、胸腔内に子宮内膜が迷入し気胸の原因になります。治療としては胸腔ドレナージを行いますが、必要があれば胸腔鏡による診断や治療を行います。手術内容としては、ブラがあれば切除し、再発予防のために横隔膜に開いた穴を塞ぐ処置を行うこともあります。手術を行っても再発率が高く、手術後は婦人科と併診してホルモン療法（偽閉経療法）を行う場合もあります。



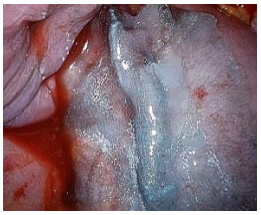
月経随伴性気胸　肺尖にブラ



月経随伴性気胸　横隔膜腱中心に多数の小孔



小孔部分の横隔膜部分切除図

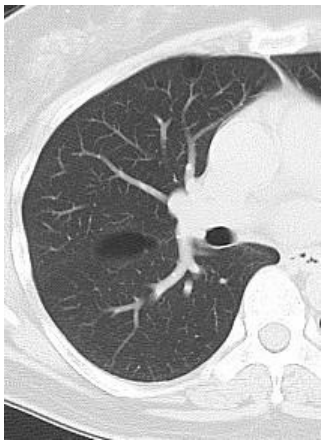


横隔膜切除部分を完全に被覆

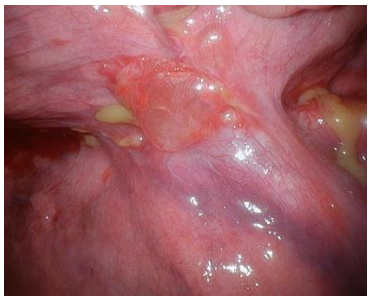
【BHD(Birt-Hogg-Dube)症候群】

① 多発性ブラに伴う気胸、②中高年発症の腎がん、③ 顔面の皮疹の 3 つの特徴を有する遺伝性疾患です。親族に気胸や腎がんの既往歴が確認されます。最終的な確定診断は血液検査によって行われます。CT 所見は典型的で、縦隔、心臓周囲、横隔膜部分、さらには葉間の肺動脈周囲に多発性ブラが確認されます。ブラは肺が動く部分にできやすいのが特徴です。

【CT 術中所見画像】

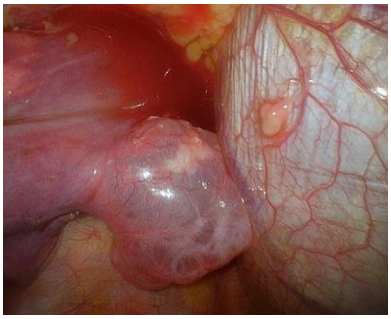


葉間の非定型的ブラ



葉間肺動脈周囲のブラの破裂

横隔膜上のブラ



横隔膜上の大きな薄壁ブラ

半球状に突出する薄壁ブラ多発→電気メスで凝固

【LAM(Lymphangiomyomatosis リンパ脈管筋腫症)】

LAM 細胞という異常細胞が肺、リンパ節、腎にゆっくりと増殖する病気で、主に妊娠可能な女性に発症します。両側の肺にブラが多発して、進行した肺気腫と同じように酸素が必要になって、頻回に気胸を発症する場合があります。結節硬化症という病気に伴う LAM もあります。

気胸に対してはドレナージや手術が必要になる場合があります。病状が進行し呼吸不全を伴う場合は、条件が整えば肺移植を行う選択肢も考えられます。

他の気胸の原因としては腫瘍や肺の感染症（肺化膿症など）、外傷などで肺に穴が開いた場合が考えられます。